

10. 河川の維持管理

10-1 問題点と課題

沙流川の河川管理は、沙流川の地域の特性をふまえて、洪水、高潮等による災害の防止、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全を総合的に行うものである。

(1) 災害発生の防止

沙流川は、流路が変動するため、河岸侵食が激しい河川であり、現況堤防並びに護岸等構造物の機能の維持及び強化対策が課題である。

(2) 河道内樹木の維持管理

河道内樹木については、洪水の流勢の緩和や生態系の保全といった、治水・環境機能を有しているが、下流部では樹林の繁茂により洪水時に河積を阻害し、水位の上昇を招き治水機能上支障となっている。そのため、治水及び環境上の機能や影響を考慮した上で、適正な樹木の管理が課題である。

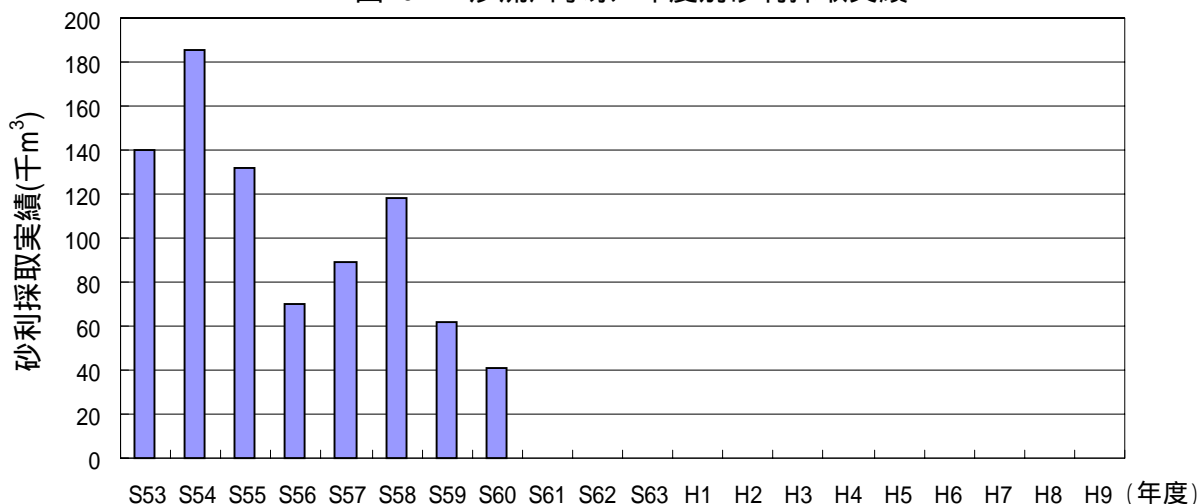
(3) 流域の土砂管理の推進

沙流川に遡上するサケ、サクラマス、シシャモは、地域において重要な水産資源となっているとともに、沙流川は自然産卵の場として再生産河川となっている。

特に、シシャモは、河口付近の砂を多く含む箇所を産卵床とすることから、シシャモ資源保護のため河床における安定的かつ平衡的な土砂の移動が課題である。そのため、河床や流路の維持及び土砂移動の把握が課題である。

沙流川では、昭和 61 年度から砂利採取規制が行われ、河床低下の防止やサケ、サクラマス、シシャモ等の生態系に配慮されている。

図10-1 沙流川水系 年度別砂利採取実績



(4)生態系への配慮

河口部のシヤマ産卵床の保全については、現状の河道を極力維持するため安定的かつ平衡的な土砂の移動が課題である。また、遡上する魚のため横断作工物に魚道の設置を行うなど自然環境への影響を考慮し、生態系の保全を図る対策が課題である。

(5)水質保全への徹底

水質は清流全国ベスト5に入っているなど、良好な水質を保っており、今後家畜ふん尿の汚濁処理や下水道事業との調整等関係自治体や地域住民などと連携して良好な水質を保持するための対策が課題である。

(6)河川環境の保全と整備

流域の土地利用は山林が82%を占め、平地の大半は下流平野に分布し、主に田園地帯が広がっている。しかし、最下流の門別町を中心に、近年は市街地化が進んでいる。

このため、スポーツ、レクリエーション活動等の河川利用、まちづくりと一体となった河川整備などの社会的要請と豊かな河川環境の保全との調整が課題である。